

武尊山に生息する野鳥と植生分布の関係について 第2報

群馬県立尾瀬高等学校理科部

はじめに

尾瀬高校の周辺は、上州武尊山や尾瀬ヶ原などの自然環境に恵まれており、フィールド調査を行う最適な環境である。昨年度より、我々は武尊山「水源の森」を対象に野鳥の種数および個体数の調査と植物の分布調査を行ってきた。昨年度の調査の結果、標高による植生の変化に伴い生息する野鳥にも変化が見られることが確認できたが、単年度の調査結果だけで上述の結果を評価することは難しいため、今年度も引き続き調査を行い、2年間のデータをまとめた。

調査方法

武尊山「水源の森」入口から武尊避難小屋までの約 2.5 km の区間に 250 m 間隔で基準となる木を設定し、1-10 の地点番号を振った。2014 年と 15 年の 5 月から 10 月まで毎月下旬に各地点でスポットセンサス法を用いて野鳥の種数・個体数調査を行った。また、6 月に植生調査を Braun-Blanquet 法を用いて行った。

結果

2 年間で 14 科 29 種の野鳥を確認することができた(表 1)。科の分類は「日本鳥類目録 改訂第 6 版」(2000)によった。2014 年と 2015 年に分けて記録された種と個体数の合計を比較したところ、2015 年に種数が 4 減少していることが明らかとなった(図 1 A)。一方、個体数は 2015 年の方が 156 増加していることが明らかとなった(図 1 B)。種数が減少しているにも関わらず個体数が増加したことから、科別の野鳥の個体数を比較したところ、ウグイス科、シジュウカラ科、ホオジロ科で顕著に増加していることが明らかとなった(図 1 C)。次に、10 地点を 5 区間に大別し、標高差による植生分布と野鳥の生息域の変化に関連性が見られるか確認した。その結果、標高の低い地点ではブナ林、高い地点ではオオシラビソ林、中間地点ではダケカンバ林が分布することが明らかとなった。林床ではチシマザサが全域で確認できた。地点別の野鳥の種を確認したところ、ウグイス科のセン

表 1 2年間で確認できた野鳥の科名と種一覧

| 科名 | 種名 |
|----------|----------|
| カッコウ科 | カッコウ |
| タカ科 | ホトトギス |
| キツツキ科 | ツツドリ |
| サンショウクイ科 | トビ |
| カラス科 | コゲラ |
| シジュウカラ科 | アカガラ |
| ヒヨドリ科 | サンショウクイ |
| ツグミ科 | カケス |
| ウグイス科 | ハシブトガラス |
| ゴジュウカラ科 | ヒガラ |
| ミソサザイ科 | シジュウカラ |
| ヒタキ科 | コガラ |
| アトリ科 | ヤマガラ |
| ホオジロ科 | コマドリ |
| | コルリ |
| | アカハラ |
| | ルリビタキ |
| | ウグイス |
| | センダイムシクイ |
| | メボソムシクイ |
| | ゴジュウカラ |
| | ミソサザイ |
| | キビタキ |
| | ウソ |
| | アトリ |
| | シメ |
| | クロジ |
| | ホオジロ |

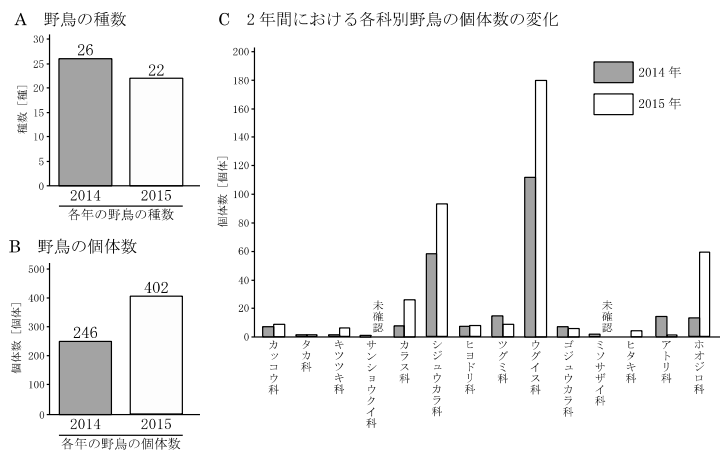


図 1 2年間で確認できた野鳥の比較

(A、B) 2年間で確認できた野鳥の種数を年別にグラフで表した。(C) 確認できた種を科ごとに分類し、個体数を比較した。

ダイムシクイが標高の低い地点に、メボソムシクイが標高の高い地点に、ウグイスは全域に生息していた。カッコウ科ではカッコウは標高の低い地点、ツツドリは比較的標高の高い地点、ホトトギスは全域に生息していた。

結論・考察

植生の分布は標高 1700 m を境にして、下部がブナやダケカンバの落葉広葉樹林、上部がオオシラビソの針葉樹林に分かれていることが示唆された。ウグイス科の種のうち、森林の高木層や亜高木層に生息しているセンダイムシクイとメボソムシクイは落葉広葉樹林と針葉樹林ですみわけている一方、ササ藪を主な生息場所とするウグイスは上記の 2 種と競争することなく全域に生息しており、植生と野鳥の生息域に関連性があることがわかった。カッコウ科の 3 種もすみわけていることがわかるが、これらの種は托卵性を持ち、カッコウは主にホオジロやモズに、ツツドリは主にムシクイ類に、ホトトギスはウグイスに托卵することが知られている。武尊山にはこれらの托卵対象となる野鳥が生息していて、その分布とカッコウ科 3 種の生息域が一致していることがわかる。ツツドリはセンダイムシクイにもメボソムシクイにも托卵するが、武尊山では標高の低い地域にはカッコウが生息するため標高の高い地域に生息するようになったと考えられる。

おわりに

本研究では、標高および植生の変化に伴って生息する野鳥種にも変化が見られることが明らかとなったが、調査した季節、気温、天候条件の変化によっても野鳥種の生息域の変化が生じると考えられるため、今後の調査において気温、天候のデータも合わせて収集し、データをまとめていきたい。

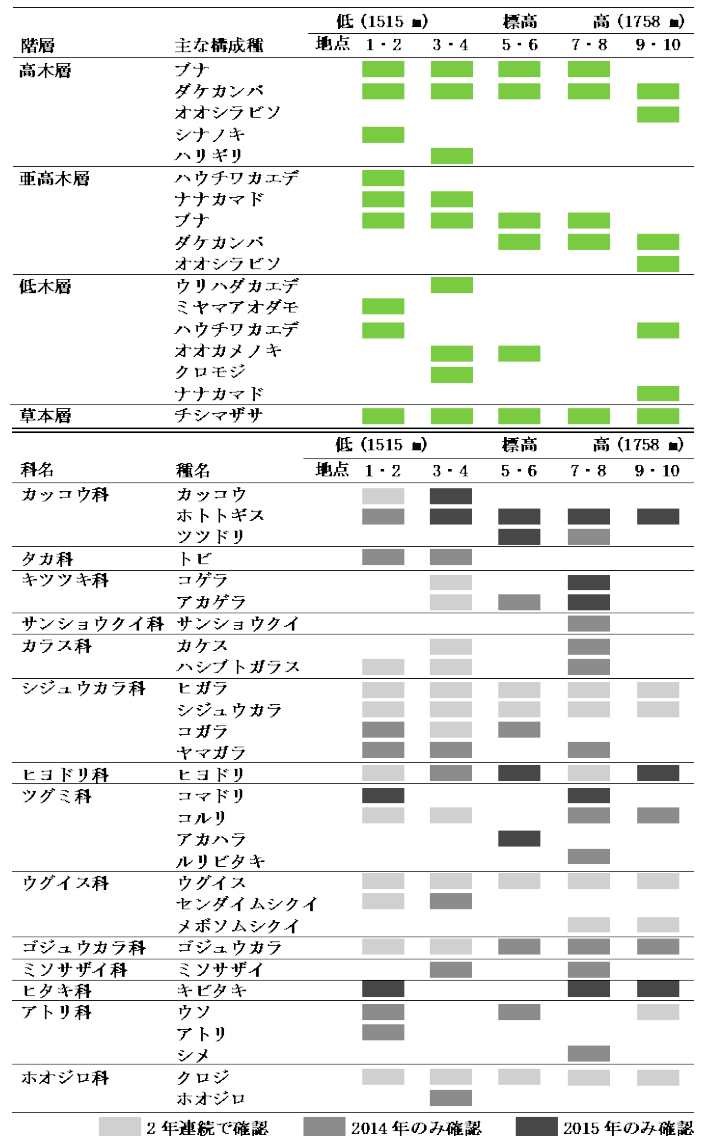


図 2 植生分布及び野鳥生息域の変化

連続する 2 地点を 1 つの区画とし、各区画で確認できた野鳥の種類と植生の分布を表にした。植生調査の結果は 2 年では変化が見られなかったことから、2 年分のデータを統